

平成27年度
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の
点検・評価報告書

平成28年9月

福井県教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	3
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	平成27年度福井県教育委員会の活動状況	5
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	12
4	教育委員会関係の許認可の状況	12
5	県立学校入学者選抜学力検査結果の状況	14
6	平成27年度実施 平成28年度公立学校教員採用選考試験の実施状況	15
V	平成27年度の教育関係施策の取組実績	18
1	平成27年度の主な取組みについて	18
2	主要施策成果報告	21
VI	有識者からの意見	41

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下、「地教行法」という。）に基づき、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

[参 考]

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）（平成27年4月1日改正法施行）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「平成27年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下、「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書により県民の皆様から、県の教育行政についてのご意見やご要望をいただき、今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

Ⅱ 点検・評価について

1 対象期間

平成27年度（平成27年4月～平成28年3月）

2 点検・評価方法

(1) 点検・評価報告書の作成

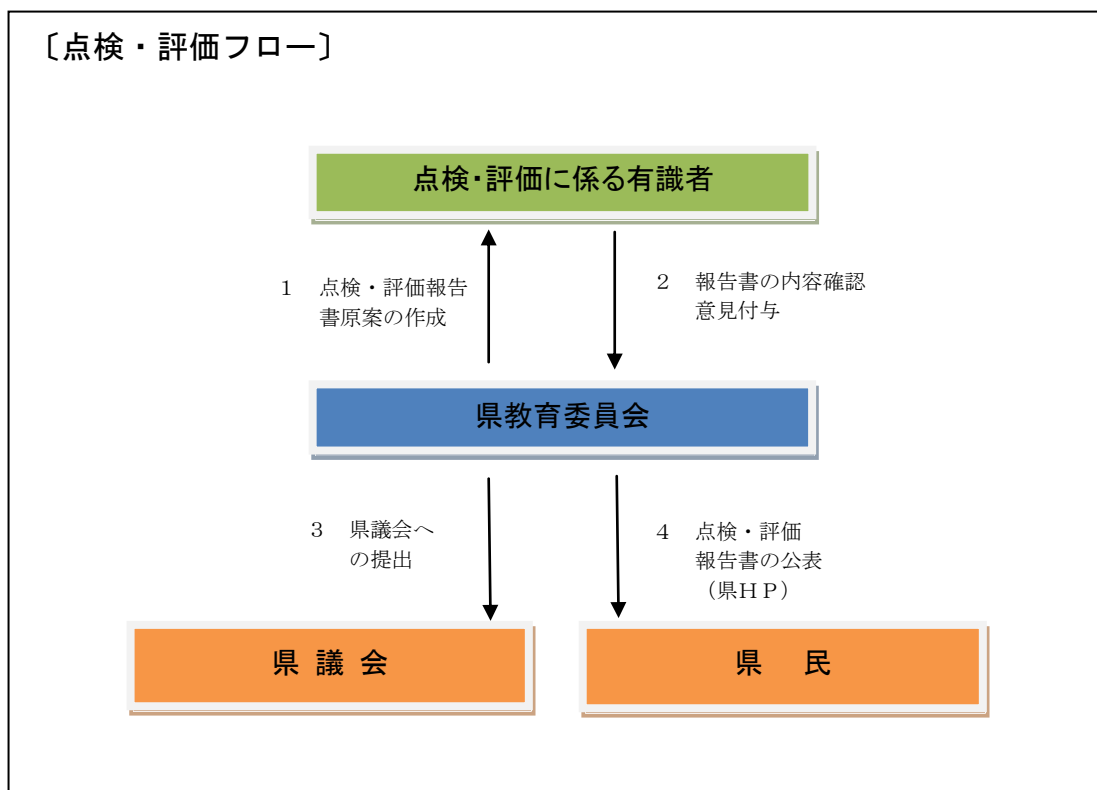
- ・ 教育委員会において点検・評価報告書案を作成

(2) 点検・評価報告書の確認、審査

- ・ 有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および審査

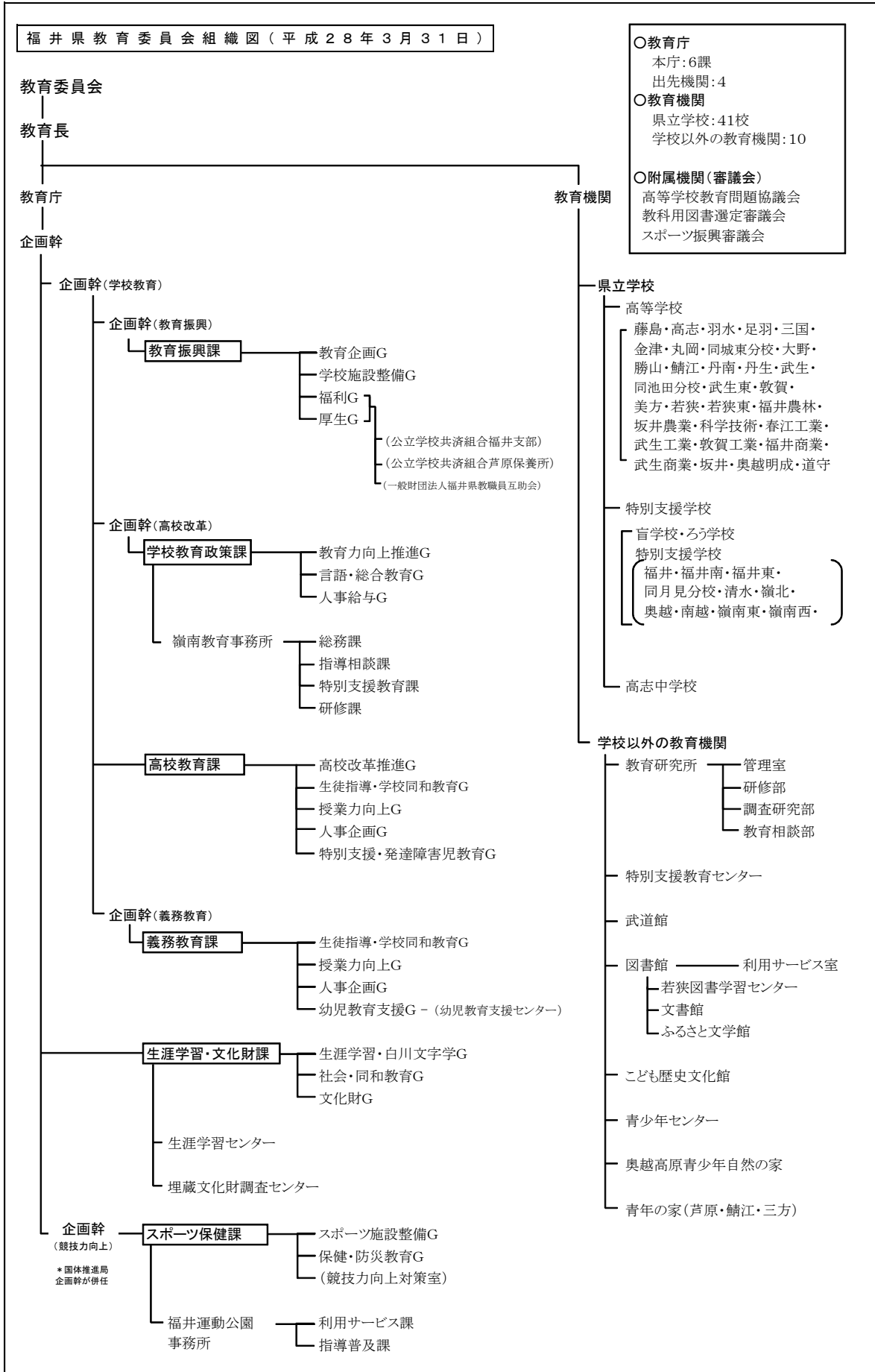
(3) 点検・評価結果の公表

- ・ 点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表



Ⅲ 組織および決算

1 組織



2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	(不納欠損額) 収入未済額	C/A	C/B
教育政策課	20,980	20,271	20,271	0	96.6	100.0
学校振興課	16,348,092	16,276,264	16,273,907	(406) 1,951	99.5	100.0
高校教育課	703,554	706,191	683,932	22,259	97.2	96.8
義務教育課	168,118	161,858	161,858	0	96.2	100.0
生涯学習・文化財課	474,805	473,299	473,277	22	99.7	100.0
スポーツ保健課	4,590,804	3,345,002	3,345,002	0	72.9	100.0
競技力向上対策課	301,434	289,718	289,718	0	96.1	100.0
計	22,607,787	21,272,603	21,247,965	(406) 24,232	94.0	99.9

(2) 歳出

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	不用額	B/A
教育政策課	2,753,211	2,740,079	0	13,132	99.5
学校振興課	74,331,595	73,965,405	107,460	258,730	99.5
高校教育課	992,295	951,945	0	40,350	95.9
義務教育課	1,067,474	1,039,715	0	27,759	97.4
生涯学習・文化財課	3,171,790	2,892,177	235,366	44,247	91.2
スポーツ保健課	9,506,389	6,319,770	3,171,880	14,739	66.5
競技力向上対策課	580,404	563,105	0	17,299	97.0
計	92,403,158	88,472,196	3,514,706	416,256	95.7

※ 計で四捨五入になるよう端数調整

IV 平成27年度福井県教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議開催等の状況

(1) 福井県教育委員会委員

(平成27年4月1日～平成27年5月18日)

	氏名	職業
委員長	吉井正雄	医師
委員(委員長職務代理者)	西野里佳	元PTA役員
委員	清川肇	会社役員
委員	小泉信太郎	会社役員
委員	八田嘉一郎	会社役員
委員(教育長)	林雅則	

(平成27年5月19日～平成28年3月31日)

	氏名	職業
教育長	森近悦治	
委員(教育長職務代理者)	吉井正雄	医師
委員	清川肇	会社役員
委員	小泉信太郎	会社役員
委員	西野里佳	元PTA役員
委員	八田嘉一郎	会社役員

(2) 教育委員会会議の開催状況

- ・ 開催回数 22回
- ・ 附議事項 67件

○第1020回（平成27年4月8日（水））

- ・ 福井県教科用図書選定審議会委員の任命について
- ・ 授業名人の任命について

○第1021回（平成27年4月22日（水））

- ・ 福井県心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について
- ・ いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について

○第1022回（平成27年5月11日（月））

- ・ 教育委員の辞職の同意について

○第1023回（平成27年5月13日（水））

- ・ 平成27年5月19日付け機構改革（教育委員会関係）および教職員以外の参事級以上の職員の人事異動について
- ・ 平成27年5月19日付け機構改革に伴う福井県教育委員会規則の一部改正について
- ・ 平成28年度福井県公立学校教員採用選考試験について

○第1024回（平成27年5月27日（水））

- ・ 福井県心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について
- ・ 福井県立歴史博物館運営協議会委員の任命について

○第1025回（平成27年6月16日（火））

- ・ 平成27年度福井県立高等学校後期編入者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
- ・ 教育長の職務に専念する義務の特例の設定と承認について
- ・ 福井県立体育施設の設置および管理に関する条例の一部改正について
- ・ 福井県立クレール射撃場の管理運営に関する規則の制定について
- ・ 福井県立青年の家設置条例の一部改正について
- ・ 福井県立青年の家に関する規則の一部改正について
- ・ 平成28年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について

○第1026回（平成27年6月26日（金））

- ・ 平成27年6月27日付け職員の辞職および平成27年6月28日付け人事異動について

- 第1027回（平成27年7月8日（水））
 - ・教職員の懲戒処分について

- 第1028回（平成27年7月30日（木））
 - ・平成28年度福井県公立学校教員採用選考試験第1次選考合否の決定について
 - ・平成28年度福井県立高等学校推薦入学者選抜制度の変更について

- 第1029回（平成27年8月19日（水））
 - ・平成28年度福井県立高等学校入学者選抜における福井国体に係る体育推薦の実施校および実施種目の決定について
 - ・平成28年度福井県立高志中学校入学者募集要項の制定について
 - ・平成28年度使用県立高等学校、県立特別支援学校高等部および県立中学校の教科用図書の採択について

- 第1030回（平成27年9月4日（金））
 - ・平成26年度教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について

- 第1031回（平成27年10月6日（火））
 - ・福井県立青年の家設置条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について
 - ・平成28年度福井県公立学校教員採用選考試験の採用内定者の決定について
 - ・平成27年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について

- 第1032回（平成27年10月26日（月））
 - ・平成28年度福井県立学校入学者募集定員について
 - ・平成28年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項等の制定について
 - ・平成28年度福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学者選考実施要項の制定について

- 第1033回（平成27年11月6日（金））
 - ・平成28年度福井県公立小・中学校事務職員採用試験の採用内定者の決定について
 - ・福井県立体育施設の指定管理者の指定について

- 第1035回（平成27年12月21日（月））
 - ・福井県個人情報保護条例施行規則の一部改正について
 - ・福井県立図書館規則の一部改正について
 - ・平成28年度教職員人事異動方針について

- 第1036回（平成27年12月25日（金））
 - ・福井県教育振興基本計画の策定について
 - ・福井県指定文化財の指定について

○第1037回（平成28年1月27日（火））

- ・南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者の決定について
- ・ふくい職業教育優秀賞受賞者の決定について
- ・平成27年度ふくい優秀教職員表彰被表彰者の決定について
- ・平成27年度福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰被表彰者の決定について
- ・福井県朝倉氏遺跡研究協議会委員の委嘱について

○第1038回（平成28年2月15日（月））

- ・福井県立学校職員定数条例の一部改正について
- ・市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
- ・福井県義務教育諸学校等の教育職員の給与等の特別措置に関する条例の一部改正について
- ・福井県立青少年センター設置および管理に関する条例の廃止について
- ・平成28年度福井県公立学校再任用教職員採用内定者の決定について
- ・平成28年度福井県寄宿舍指導員採用内定者の決定について
- ・福井県立美術館運営協議会委員の任命について

○第1039回（平成28年3月14日（月））

- ・福井県指定文化財の指定について
- ・平成28年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職（教員出身者）の人事異動について
- ・平成28年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について
- ・授業名人の任命について
- ・平成27年度漢字指導者の認定について
- ・福井県文化財保護審議会委員の任命について
- ・福井県銃砲刀剣類登録審査委員の任命について

○第1040回（平成28年3月23日（水））

- ・行政不服審査法の改正に伴う関係規則等の一部改正について
- ・教育職員免許に関する規則の一部改正について
- ・教職員人事評価制度導入に伴う関係規則の廃止について
- ・運動公園の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・福井県教育委員会職員衛生管理規程の一部改正について
- ・平成28年4月1日付け機構改革（教育委員会関係）および教職員以外の参事級以上の職員の人事異動について

○第1041回（平成28年3月31日（木））

- ・平成28年4月1日付け機構改革に伴う福井県教育委員会規則等の一部改正について
- ・女性職員の活躍の推進および次世代育成対策推進に関する特定事業主行動計画について
- ・障害を理由とする差別の解消の推進に関する福井県教育委員会職員対応要領について

2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)
平成27年 4月 1日	新採用教職員辞令交付式
4月 1日	県立学校校長・教頭辞令交付式
4月 4日	高志中学校開校式・入学式
4月 8日	第1020回教育委員会
4月25日	授業名人任命式
4月25日	県外からの派遣教員との意見交換
4月25日	第1021回教育委員会
5月11日	第1022回教育委員会
5月12日	県議会本会議
5月13日	第1023回教育委員会
5月26日	市町教育委員会連絡協議会
5月27日	第1024回教育委員会
6月 1日	知事との意見交換
6月 4日	学校視察 (高志中)
6月 9日	学校視察 (丹生、南越特支)
6月10日	学校視察 (成器南小、奥越明成)
6月12日	学校視察 (敦賀工業)
6月16日	第1025回教育委員会
6月22日	学校視察 (若狭東)
6月23日	第1回総合教育会議
6月26日	第1026回教育委員会
6月29日	学校視察 (東郷小)
7月 8日	第1027回教育委員会
7月13日 14日	全国都道府県教育委員会連合会総会
7月30日	第1028回教育委員会
8月 9日	教員採用試験面接
8月10日	教員採用試験面接
8月11日	教員採用試験面接
8月12日	教員採用試験面接
8月17日	国体準備委員会
8月19日	第1029回教育委員会
9月 4日	第1030回教育委員会
9月 4日	第2回総合教育会議

9月14日	嶺南地区校長会
9月26日 27日	和歌山国体視察
9月30日	和歌山国体視察
10月 3日	和歌山国体視察
10月 6日	第1031回教育委員会
10月 6日	知事との意見交換
10月 9日	若狭歴史博物館特別展開会式
10月26日	第1032回教育委員会
10月27日 28日	東海北陸ブロック教育委員全員協議会
11月 6日	第1033回教育委員会
11月 9日	管理職任用選考試験面接
11月11日	管理職任用選考試験面接
11月12日	管理職任用選考試験面接
11月18日	第1034回教育委員会
11月21日	福井教育フォーラム
12月 9日	嶺南地区教頭会
12月13日	福井大学クロスセッション
12月21日	第1035回教育委員会
12月25日	第1036回教育委員会
平成28年 1月27日	第1037回教育委員会
2月 1日	全国都道府県教育委員会連合会総会
2月15日	第1038回教育委員会
2月15日	ふくい優秀教職員等表彰式
2月19日	嶺南教育事務所教育実践交流会
3月 1日	県立学校卒業式（羽水）
3月 2日	県立学校卒業式（勝山、丹南）
3月 3日	県立学校卒業式 （若狭東、福井商業、坂井農業、武生東）
3月 4日	県立学校卒業式（若狭）
3月 5日	県立学校卒業式（春江工業）
3月10日	県立学校卒業式（清水特支）
3月11日	県立学校卒業式（奥越特支）
3月14日	第1039回教育委員会
3月14日	県外派遣教員との意見交換会
3月15日	県立学校卒業式（嶺南西特支）
3月23日	第1040回教育委員会
3月23日	授業名人任命式

3月31日	退職教職員辞令交付式・表彰式
3月31日	第1041回教育委員会

※ 教育長単独での活動の記載は省略してあります。

3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障害児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	27. 6. 12 27. 9. 18 27. 12. 16
福井県教科用図書選定審議会	19	3	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	27. 4. 17 27. 6. 2 27. 6. 10
福井県文化財保護審議会	15	4	県指定の現地調査依頼について 指定文化財の諮問について 指定文化財の答申について	審議・諮問・協議・答申	27. 6. 9 27. 11. 2 27. 12. 22 28. 2. 26
福井県社会教育委員の会議	10	1	社会教育関係施策について 公民館実態調査報告について	協議	28. 3. 15
福井県朝倉氏遺跡研究協議会	10	2	平成 27 年度事業実施状況について 今後の事業計画について 平成 27 年度事業実績について 平成 28 年度事業計画について	協議	27. 8. 5 28. 3. 29
福井県スポーツ推進審議会	15	1	福井県スポーツ推進計画の進捗状況について これからの児童生徒、県民のスポーツ振興について	審議	28. 3. 23

4 教育委員会関係の許認可の状況

(1) 教育職員免許状の授与等（平成 27 年度）

区分	専修免許状	1種免許状	2種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	30	125	28	0	18	201
中学校	44	106	8	1	6	165
高等学校	52	207			45	304
特別支援学校	3	22	35		15	75
幼稚園		65	141		3	209
養護教員	0	18	6		2	26
栄養教員		12	1			13
自立教科等						
合 計	129	555	219	1	89	993

(2) 文化財の指定状況

平成27年度においては、有形文化財（建造物・絵図等）7件、無形文化財1件、記念物2件を新たに県指定文化財に指定しました。

また、1件が新たに国重要文化財に指定されました。

< 指定文化財の現状 >

平成28年3月31日現在

区分	国			県指定	計
	指定	選定・選択	登録		
国 宝	6				6
重要文化財	103				103
有形文化財			157	230	387
無形文化財	1			5	6
重要有形民俗文化財	1				1
有形民俗文化財			1	9	10
重要無形民俗文化財	5				5
無形民俗文化財		10		62	72
特別史跡	1				1
史 跡	23			29	52
特別名勝	1				1
名 勝	13		2	7	22
特別天然記念物	4				4
天然記念物	16		1	33	50
特別名勝天然記念物					
名勝天然記念物	1				1
計	175	10	161	375	721
重要伝統的建造物群保存地区		2			2
選定保存技術		1			1

(3) 銃砲刀剣類の登録状況

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等をおり行いました。

登録証交付 59 件

登録証再交付 15 件

所有者変更 247 件

(4) 教育委員会所管の公益法人

26 法人 (平成28年3月31日現在)

新制度移行法人 (公益財団法人11 公益社団法人1 一般財団法人9
一般社団法人5)

5 平成28年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況

(1) 県立高等学校

推薦入学、中高一貫教育校入学者選抜、第1次学力検査および第2次学力検査の課程別の合格者数は、表1のとおりです。また、全日制の第1次の学力検査合格者4,227人(前年度4,401人)に関する教科別の平均点は、表2のとおりです。

表1 課程別の合格者数

※ () 内は前年度実績

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦入学によるもの	921(848)		921(848)
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	102(83)		102(83)
1次学力検査によるもの	4,207(4,401)	183(165)	4,410(4,566)
2次学力検査によるもの	12(16)	28(34)	40(50)
計	5,262(5,348)	211(199)	5,473(5,547)
充足率	99.4%(99.3%)	44.0%(41.5%)	94.8%(94.6%)

<参 考>

募集定員	5,295(5,385)	480(480)	5,775(5,865)
------	--------------	----------	--------------

表2 教科別の平均点

教 科	全 日 制
国 語	64.9 (61.5)
英 語	55.0 (53.9)
数 学	58.2 (47.1)
社 会	56.3 (52.9)
理 科	51.2 (51.4)
総 点	285.6 (266.9)

(2) 県立中学校

平成27年度に開学した高志中学校の入学者選抜の受験の状況は、表3のとおりです。また、適性検査等の結果は表4のとおりです。

表 3 受験の状況

募集定員	出願者数	受験者数	合格者数
90	316	316	90

表 4 適性検査等の結果

	配点	平均点
適性検査Ⅰ	100	57.2
適性検査Ⅱ	100	28.7
適性検査Ⅲ	100	44.0
作文	50	32.4
合計	350	162.2

6 平成27年度実施 平成28年度公立学校教員採用選考試験の実施状況

第1次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成27年7月18日(土) 一般教養・教職専門・教科等専門(小学校、 高等学校各教科、養護教諭、栄養教諭)	福井県立高志高等学校(福井市御幸2-25-8) 【小学校実技(水泳)】 男子：福井市日之出小学校(福井市日之出 5-11-1) 女子：福井市旭小学校(福井市手寄2-2-5)
平成27年7月19日(日) 教科等専門(中学校各教科、中高一括で行 う教科、特別支援学校)	

第2次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成27年8月8日(土) 適性検査、小論文 平成28年度大学院特別選考 適性検査、個人面接 スポーツ・芸術特別選考 小論文、個人面接	福井県立高志高等学校(福井市御幸2-25-8)
平成27年8月9日(月)、12日(水) (個人面接、集団討論)	
平成27年9月12日(土) 教育エキスパート特別選考 小論文、個人面接	福井県庁(福井市大手3丁目17-1)

《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保、選考過程の透明性、公平性を図るため、次のような改善を行いました。

○ 優秀な人材の確保

< 18年度から実施 >

- ・受験資格を60歳未満に拡大
- ・講師経験者の1次選考免除を導入

< 19年度から実施 >

- ・2次選考において、場面指導を導入
- ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

< 20年度から実施 >

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

< 21年度から実施 >

- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

< 23年度から実施 >

- ・スポーツ特別選考の実施

< 25年度から実施 >

- ・従来の一括募集を校種・教科別の募集に変更
- ・2つの校種・教科を併願できるように変更
- ・校種・教科の専門試験を1次選考で実施（全ての受験者が専門試験を受験）
- ・2次選考の「場面指導」を「集団討論」に変更
- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）

< 27年度から実施 >

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
③グローバル教育特別選考

○ 受験者に対する情報の提供

< 20年度から実施 >

- ・2次選考の不合格者に対して、成績をA、B、Cの三段階で通知
- ・試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）
- ・個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示
1次選考、2次選考における筆記試験、実技試験、面接、作文の点数
- ・筆記試験、実技試験、面接、作文の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
- ・1次選考合格者、最終合格者について、合否結果通知の発送に併せて、ホームページでも受験番号を公表

< 21年度から実施 >

- ・判定基準をホームページで事前発表
- ・解答例、設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
- ・不合格者の希望者に筆記試験、実技、作文、面接の各点数および合計点数を通知

< 26年度から実施 >

- ・不合格者全員に筆記試験、実技、作文、面接の各点数および合計点数を通知

○ 選考過程等の改善

< 20年度から実施 >

- ・改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検実施
- ・民間有識者による、選考手順や選考内容の点検、抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合

< 21年度から実施 >

- ・実技試験において、受験番号にかわり整理番号の使用

< 24年度から実施 >

- ・電子申請による受付

< 26年度から実施 >

- ・一般教養の試験において、マークシート方式を導入

< 27年度から実施 >

- ・小学校筆記試験に外国語のリスニングテストを導入
- ・一般教養に加え、教職専門の試験において、マークシート方式を導入

V 平成27年度の教育関係施策の取組実績

1 平成27年度的主要な取組みについて

- ・新たな地方教育行政組織法に基づき、知事と教育委員会による福井県総合教育会議を2回開催し、ふるさと教育や学力向上など「教育に関する大綱」の策定について意見交換を行いました。相互の意思疎通を図りながら施策をより速やかに着手・実行することができるようになりました。
- ・10月に今後5年間の本県教育の目標とする「教育に関する大綱」が策定され、これに基づく具体的な行動計画として「福井県教育振興基本計画」を12月に策定しました。
- ・小学校における英語教科化に備え、外国語大学と共同して教材等を開発し、小学校の教員研修を実施するとともに、中学校のALTを増員し、授業公開などALTの研修を充実して、英語の授業改善を進めました。
(英検3級相当以上を取得した中学生 目標：41%、達成状況：42.7%)
(英検準2級相当以上を取得した高校生 目標：39%、達成状況：42.5%)
- ・全国で初めて職業系高校生の資格取得を総合的に支援する「福井フューチャーマイスター制度」を創設し、併せて、地元企業が求める資格試験の受験料支援制度を設け、生徒の受験を促進しました。
- ・耐震化や天井等の落下防止対策を計画的に進め、平成27年度中にすべての小・中学校、県立学校の耐震化が完了しました。
(耐震化率 目標100%、達成状況：100%)
- ・ふるさと文学館において、文芸創作活動に関心のある若い世代を中心に、年間を通じて文書指導を行う「ふくい文学ゼミ」を新たに開講し、28人が修了しました。(ふくい文学ゼミ修了者数 目標：10人、達成状況：28人)
- ・平成30年の福井国体に向け、オリンピック選手などを育てた実績のあるスーパーアドバイザーを派遣し、実践指導を行うとともに、未普及競技に強化コーチを配置し、競技力向上を図りました。
(国体総合成績 目標：10位台、達成状況：26位)
- ・「スポジョブふくい」により、62名の有力選手を確保しました。また、県外の練習拠点への移動費の支援など、個々の状況に応じた競技力向上への支援を実施しました。(有力選手確保 目標：60名、達成状況：62名)

2 主要施策成果報告

(1) 教育振興基本計画に基づく施策の実施結果

方針1:ふるさと福井に誇りと愛着を持ち将来の福井を考える人を育てる 「ふくい創生教育」の推進

- ふるさとの先人100人の生き方を学ぶ副教材を作成
- こども歴史文化館をリニューアルして1階に「特別展示室」を設置
見学ツアーなど特別展に関連した参加体験型のイベントを実施
- 都会と比較しながら福井の生活の魅力を知る副教材を作成
- 全小学校で職場見学、全中学校で職場体験を実施
- 福井ゆかりの先人を学ぶ「心のノート」や「福井の希望」を道徳教育等に活用
- 教職員向けの人権教育の手引きを改訂し、実践事例等を追加
- 北潟湖周辺、六呂師高原周辺の「里山里海湖学校教育プログラム」を作成・活用

福井ゆかりの「ふるさと先生」授業実施高校：21校（平成26年度：13校）
こども歴史文化館の年間入館者数：54,291人（平成26年度：53,259人）

方針2:夢や希望を実現する「突破力」を身に付ける教育の推進

- ふくい理数グランプリを開催し、中学生・高校生1,433名が参加
- 中学校における英語・数学の習熟度別授業を試行し、実施校の成績が向上
- 福井にゆかりのある百人一首などを取り入れた独自教材を作成
- 全小学校で百人一首を音読・暗唱、全中学校で故事成語、漢詩、論語を学習
- 高校3年生向けの大学別夏期・冬期セミナーに408名が参加
- 県独自の学力調査等のつまづき箇所等をまとめた参考資料を作成し、授業改善に活用
- 高校9校および特別支援学校2校に加え、新たに高志中学校にタブレット端末を導入
フィールドワークに活用するなど授業改善を研究
- 高校入試制度見直しのため、選択問題および英語スピーキングテスト導入について検討
- 平成27年4月から本県独自のカリキュラムに基づく保幼小接続を全県で実施

国公立大学希望合格率：59%（平成26年度：61%）
市町幼児教育アドバイザーの配置：14市町（平成26年度：—）

方針3:社会への参加を進め、高度な専門知識・技能を身に付ける教育の推進

- 高校生が選挙や政治のしくみを学ぶため、国が作成した副教材の活用を開始
- 県立学校の管理職と公民科教員を中心に公職選挙法などについての研修を実施
さらに、各学校で全教職員を対象に研修を実施
- 企業と連携し、高校生の資格取得を促進する福井フューチャーマイスター制度を創設
難関資格受験者数が前年比11.1%増、合格者数が前年比8.2%増
- 職業系高校2年生を中心に延べ1,975名が749事業所でインターンシップに参加
- 若狭東高校において、植物工場での野菜や薬草の商品開発など6次産業化に対応した農業学習を開始
- 商業系全6校において観光授業を開始。専門的な外部講師による授業を25回実施
- 産業人材コーディネーターによる就労支援や地元企業とのマッチングを実施
高校における就職希望者の内定率は99.9%

高校生のボランティア参加回数：6,252回（平成26年度：6,070回）
高校生の難関資格合格者数：836人（平成26年度：773人）

方針4:グローバルな社会で活躍するための「使える」外国語教育の推進

- 小学校における英語教科化に備え、外国語大学と共同して教材等を開発
英語教育の中核となる小学校教員向けの研修を実施
- 中学校ALTを増員し、学期1回程度の小学校訪問を開始
- 英語教育人材バンクを設置。11月から小学校外国語活動の支援を開始
- 中学生が、ふるさと福井の魅力を英語で紹介するPRカードを作成し、授業で活用
修学旅行等の機会を活用し、国内外に発信
- 小学校全教員がラジオ講座等を活用した自主的な英語力向上を開始
- 英語を中心とした授業を行うための中学校・高校教員研修に108名が参加
中学校・高校英語教員262名が外部検定試験を受検
- 英検準1級程度の英語力を持つ教員割合が向上（中学校：51.7%、高校：86.6%）
- 中国語学研修に高校生を5名派遣

英検3級相当以上を取得した中学生：42.7%（平成26年度：38%）
英検準2級相当以上を取得した高校生：42.5%（平成26年度：36%）

方針5: 福井の教育を支える教員の指導力をさらに向上

- 教育研究所を春江工業高校跡地に移転・整備するための改修設計を実施
- 新たな教育研究所内の「教育博物館」開設のため展示資料の調査・収集を開始
- 福井教育フォーラムを開催し、41都道府県から約800名が参加
県外からの教育視察者は2,804名
- 教員自身の授業映像を活用した教員研修を若手教員研修に導入
- 若手教員と教育研究所による自主研究を21グループが実施
教員が利用しやすい新たな支援制度を創設
- 他県先進校等に5名の教員を派遣するとともに、6県11名から1年間の派遣研修を受け入れ
- 退職教員による小学校の外国語活動、中学校・高校の補習指導など学習支援を開始

若手教員が参加した自主研究グループ数：21グループ（平成26年度：—）
教員の通信研修受講件数：4,444件（平成26年度：1,375件）

方針6: 安全・安心でみんなが楽しく学ぶ学校づくりの推進

- いじめ対策として学校全体での未然防止と発生後の組織的対応による早期解消を徹底
- 不登校対策として5日以上連続欠席した児童・生徒に対し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる対応を徹底するとともに、早期復帰を支援
- 高校生による脱スマホサミットを開催するとともに、小・中学校および高校においてインターネット適正利用の自主的なルール作りを推進
- 特別支援学校と小・中学校の交流および共同学習を促進
高校との作業学習を充実して販売会・展示会增加（85回、平成26年度：60回）
- 学校ジョブコーチによる実習支援など特別支援学校生徒の一般就労を支援
- 全小・中学校において目を休めるリフレッシュタイム、ビジョントレーニングを実施
- 全小学校1～4年生を対象に歯みがき教室を実施するとともに、歯科二次検診を開始
- 全学校において地震や津波などの避難訓練を実施
原子力発電所から30km圏内の全学校において原子力災害避難訓練を実施

年度内のいじめ解消率：97.0%（平成26年度：95.5%）
特別支援学校生徒の一般就労率：32.9%（平成26年度：30.6%）
むし歯のない小学生の割合：68.4%（平成26年度：65.9%）

方針7:児童・生徒数の減少や社会の変化に対応した学校・学科の整備

- 県立高校再編について、関係者の意見を聞くなど情報収集を実施
- 道守高校を除く夜間定時制4校を平成29年度から募集停止。昼間に移行
- 武生高校池田分校を平成30年度から募集停止
丸岡高校城東分校を平成29年度から丸岡高校定時制に移行
- 統合予定の小・中学校に対する教職員の増配置を統合前後の2年間に拡充
平成28年度は4小学校に増配置
- 全小・中・高校の耐震工事を完了
- 学力、スポーツ・文化活動の成果に応じ、私立高校の魅力向上のための補助を実施
- 就職・進学など卒業生の県内定着を促進するための私立高校に対する補助制度を創設

学校施設の耐震化率：100%（平成26年度：94%）

方針8:生涯にわたる学びを地域活動につなげる仕組みづくりの推進

- 福井ライフ・アカデミー主催講座を4,817名が受講
- 社会教育団体の行う人材育成や地域づくり活動を支援するとともに、活動内容を
紹介・発信
- 青少年教育施設における長期宿泊体験事業（サマーチャレンジ）に144名が参加
- 芦原青年の家の再整備に合わせた新体験プログラムを試行
施設整備工事を行い、平成28年7月に新芦原青年の家を開所予定
- 青少年教育施設利用者を対象に、里山里海湖研究所や自然保護センターと連携した
ワークショップを実施
- 親子で同じ本を読む親子読書を全小・中学校において新たに実施
- 由紀さおりさんによる「童謡で伝える会」を6回開催し、1,160名が参加
- 出前家庭教育講座を年間95回実施し、約1,900名の保護者等が参加
- 「家庭教育相談・応援サイト」に10,092件のアクセス

青少年教育施設の長期宿泊体験者数：144名（平成26年度：130名）

方針9：地域への愛着を深める芸術・文化活動や創作活動の充実

- 弦楽クラブを設置する学校を2校増やし、県内4地区全12校において活動
新たに複数地区による合同演奏会を開催
- 美術教育の推進校を新たに13校指定。授業公開には延べ223人の教員が参加
東京藝大派遣教員による日本画実技研修会に167名の教員が参加
- 全小学5年生を対象に県立音楽堂でのオーケストラ鑑賞を実施（7,138名参加）
福井ゆかりの演奏家を中学校に派遣する「出張音楽堂」に4,143名が参加
- 県立図書館への調査相談件数が約12,000件増加（43,894件）
- 福井ふるさと文学館において、本県ゆかりの作家・作品をテーマに企画展などを開催
開館からの入館者数は103,421名
- 著名作家や編集者などを講師とした「ふくい文学ゼミ」を28名が修了
- 立命館大学と共同し、「白川文字学による漢字教育の効果検証」を実施
福井独自の漢字教育を紹介する公開講座を県外5か所で開催。240名が参加
漢字指導者認定講座を計7回開催し、63名を新たに認定（累計200名）
- 「中村家住宅」の国重要文化財指定、「越前鳥の子紙」の県文化財指定など11件の
国・県文化財指定を実施
- 一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）整備基本計画を策定
- 市町と連携して敦賀赤レンガ倉庫を整備（ジオラマ館・レストラン館）
入館者は5か月で約70,000名以上
- 丸岡城国宝指定に向け、専門家による調査研究委員会を組織し、建築年代を調査

小・中・高校の弦楽クラブ等参加者数：155名（平成26年度：98名）
県立図書館年間貸出冊数：838,779冊（平成26年度：819,031冊）
文化財指定件数：11件（平成22～26年度平均：9.6件）

方針10:「福井しあわせ元気国体」の優勝を目指した競技力向上と国体の成果を活かした県民スポーツの振興

- 中学校・高校の強化指定校を6校増やし部活動における強化を促進
平成27年度：84校216部（平成26年度：78校197部）
- スーパーアドバイザーの派遣競技・回数を増加
平成27年度：40競技326回（平成26年度：37競技259部）
- 「スポジョブふくい」等を活用して県外有力選手のUターンを促進
62名の有力選手を確保（累計110名）
- 福井国体の会場となる施設について、5施設の改修が完了
〔陸上競技場、エアライフル射撃場、クレー射撃場、野球場、漕艇場〕
市町競技施設31施設のうち19施設の整備に着手。6施設が完了
- 東京オリンピック事前キャンプ誘致のため、越前町のホストタウン登録申請など
市町の活動を支援
- 総合型地域スポーツクラブ間の連携イベントを開催（6回）
- 全国体力・運動能力調査において、全種別において体力合計点が全国1位
県独自の体力・運動能力調査を活用して計画的な体力向上を実施
- 小学校低学年の体育授業に指導者を派遣（30校）
全中学校に指導者を派遣し、国体種目の体験教室を実施

国体男女総合成績：26位（平成26年度：17位）

「スポジョブふくい」等による有力選手の確保：62名（平成26年度：48名）

(2) 主要事業の実施成果

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(1) ・福井の教育モデル発信事業				教育政策課
[事業目的]	福井型 18 年教育をはじめとする福井の高い教育力、授業力を日本のモデルとして国内をはじめ、世界に発信する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・福井の教育の英語版動画を作成し、インターネットで発信 ・教育リーフレットを英語版で作成し、海外からの視察者等に配布 ・11月に教育フォーラムを開催（参加者数 825人） ・授業名人等を他県に派遣（派遣人数 43人） 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	2,825			2,825
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	県外からの学校視察 受入者数	2,300人	2,804人
	成果 指標	フォーラム参加者数	600人	825人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・海外への発信として、英語版リーフレットの作成や、11月の世界授業研究会への参加などを行った。 ・国内への発信として、11月の教育フォーラムの開催や、授業名人を他県に派遣するなど、福井県の教育力を国内および世界へ発信した。 			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(2) ・教育研究所移転整備事業				教育政策課
[事業目的]	全国初の教育博物館を整備し、福井の教育の発信機能や、教育課題の研究、研修の拠点としての機能を強化し、教員の指導力のさらなる向上を図るため、教育研究所を春江工業高校跡地に移転する。また、福井国体開催に向け現教育研究所を解体する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・現教育研究所解体のための土壌調査および実施設計 ・春江工業高校改修のための実施設計 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	2,729			2,729
[事業の目標 および効果]	教育研究所の解体および改修に係る設計書を完成させることができた。			
[事業評価]	教育課題の研究、研修の拠点としての機能強化を進めるとともに、29年度の開所に向けて、改修工事等を行う。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(3) 坂井高等学校の施設等の事業				学校振興課
[事業目的]	26年4月に開校した坂井高校の施設・設備の整備を段階的に行う。			
[事業内容]	テクノラボ、体育館の新築、総合実習棟の改修、本館の耐震改修、実習設備、備品の整備			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	529,615	343,241		186,374
[事業の目標 および効果]	別館・サイエンス棟の耐震改修、実習設備・備品の整備およびグラウンド等の環境整備を実施した。			
[事業評価]	施設・設備の整備を行い、生徒の学習環境向上に資することができた。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(4)・中高一貫教育指導力向上事業				高校教育課
[事業目的]	高志中学校・高等学校での中高一貫教育の実施に向けて、指導体制を整備、充実する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫先進校で指導実績のある教員による授業の実施 ・先進校校長による教員研修の実施 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	1,783			1,783
[事業の目標 および効果]	活動 指標	内 容	目 標	実 績
		中高一貫先進校で指導 実績のある教員による 授業実施数	8回	8回
[事業評価]	中高一貫先進校で指導実績のある教員による授業や先進校校長による教員研修を実施し、指導体制の整備が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(5) ・高校生学力向上推進事業			高校教育課	
[事業目的]	生徒の進学希望を実現するために、教員の受験指導力や高校における進学指導体制を強化する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・受験指導のエキスパートとなる教員等を養成し、進学指導体制を強化 ・生徒の学習意欲や学習状況を把握するための調査を実施 ・大学進学希望者の学力向上を支援（入試対策セミナーの充実等） 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	22,934		5,751	17,183
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	授業満足度	75%	77%
	成果 指標	難関 10 大学合格者 (県立・現役)	110 人	112 人
[事業評価]	生徒の学力向上や進路指導の充実に向けた活動により、より多くの生徒の進路志望実現が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(6) ふるさと教育推進事業			高校教育課	
[事業目的]	中高生への福井の先人の生き方等を学ぶ「ふるさと教育」を進め、県民としての誇りを持ち、本県の魅力を発信できる人材として育成する。			
[事業内容]	福井の先人の生き方等を学ぶ教材を作成			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,453			1,453
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	教材の構成や掲載する 先人の選定・編集	48 人	48 人
[事業評価]	中学生や高校生が学ぶための教材を作成するため、掲載する先人の選定・編集が行われた。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(7) スマート教育推進事業			高校教育課	
[事業目的]	動画や音声などのICT機器の長所を活かした英語の授業や本県独自の予習型授業を導入するなど、高校の授業内容を改善し、生徒の学力向上を図る。			
[事業内容]	実践推進校においてタブレット端末を活用した授業の実施			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	67,865	67,865		
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	タブレット端末導 入数	448 台	448 台
[事業評価]	タブレット端末を活用した英語の授業を導入するなど、高校の授業内容の改善が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(8) 企業連携型地域産業担い手育成事業			高校教育課	
[事業目的]	職業系高校と産業界の連携を強め、社会のニーズや技術の進展に対応した教育の充実を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・企業ニーズに基づく職業教育への助言、進路指導・求人開拓を行うコーディネーターの配置 ・企業の生産現場における実践的な実習の実施 ・工業や観光などの難関資格取得のための講習会の実施 ・企業現場の水準に応じた機械設備の導入 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	126,095	126,070		25
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	企業技術者等参画人数	50 人	62 人
	成果 指標	高難易度資格取得者数	100 人	117 人
[事業評価]	地元企業からの授業等への助言や、生徒の長期実習受入・実習指導などにより、生徒の学習意欲・技能の向上が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(9) スクールカウンセラー配置事業			高校教育課	
[事業目的]	臨床心理士等を配置し、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。			
[事業内容]	生徒の心のケア等を行うスクールカウンセラーを配置 <ul style="list-style-type: none"> ・対応対象 定時制高校(7校)、高志中学校(1年生) ・業務内容 生徒へのカウンセリング、教職員や保護者への助言等 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	4,419	1,473		2,946
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	相談延べ件数	850 件	900 件
[事業評価]	生徒へのカウンセリングや教職員や保護者からの相談等に対し、きめ細かな対応が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(10) スクールソーシャルワーカー配置事業			高校教育課	
[事業目的]	社会福祉士等の専門的な知識を持つ人材と連携し、家庭や友人関係等、生徒を取り巻く問題の解決を図る。			
[事業内容]	生徒を取り巻く社会環境への働きかけを行うスクールソーシャルワーカー配置 <ul style="list-style-type: none"> ・資格要件 社会福祉士や精神保健福祉士、元教員等の福祉や教育について経験を有する者 ・業務内容 問題を抱える生徒の家庭等への働きかけ、福祉関係機関等とのネットワークの構築や連携、調整等 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	1,786	595		1,191
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	対応事案数	350 件	399 件
[事業評価]	精神保健福祉センターと連携し本人や家庭に対する訪問・電話相談を行うなど、問題解決に向けた調整が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(11)「ともに働く」就労応援事業			高校教育課	
[事業目的]	特別な支援を要する生徒が行う企業実習でのサポートを充実し、地元企業や農業法人等への一般就労を促進する。			
[事業内容]	ジョブコーチ（3名）による実習補助、求人開拓			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	7,134	6,394	740	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	企業実習サポート実施生徒 数	30人	37人
	成果 指標	就職内定率（サポート実施 3年生）	80%	89.5%
[事業評価]	高校および特別支援学校の生徒が行う企業実習のサポートや職場開拓を充実し、地元企業等への一般就労が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(12)・福井フューチャーマイスター事業			高校教育課	
[事業目的]	県内高校生の資格取得等に対する意欲向上を図り、地元企業に就職してから活躍できるスキルアップを応援するため、企業が求める専門資格取得を支援する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・県内企業が求める資格などを盛り込んだ「福井フューチャーマイスター制度」を創設 ・企業が求める専門資格の取得を支援（補助率 難関資格 2/3、一般資格 1/2） 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	4,455			4,455
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	専門資格取得支援 者数	1,200人	1,242人
[事業評価]	県内職業系高校生のスキルアップのため、県内企業が求める専門資格取得を支援し、資格取得やコンクール等に対する意欲向上が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(13) ・スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH) 事業				高校教育課
[事業目的]	農業を中核に商業・工業と融合した産業を創り、地域資源を活かし売れる商品をつくる人材を育成する。			
[事業内容]	薬用植物の産地化や植物工場など高度な施設園芸を取り入れ、生産から調理・加工、販売までを実践する独自の学習プログラムを実施 ・実施校 若狭東高校 ・事業期間 27～29 年度			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	6,427	6,427		
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	成果 指標	農業関連企業等への就職者数	2 人	2 人
[事業評価]	生産から調理・加工、販売までを実践する独自の学習プログラムを実施し、薬用植物の産地化や植物工場など高度な施設園芸に対応できる人材の育成が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(14) 幼児教育支援事業				義務教育課
[事業目的]	保育所・幼稚園等の幼児教育現場や幼児の家庭における幼児教育力の一層の向上を図るため、幼児教育支援プログラムに掲げる施策を推進する。			
[事業内容]	・幼児教育キャリアアップシステムの創設 ・市町幼児教育アドバイザー、園内リーダーの養成 ・保幼小接続講座の開催 ・家庭の幼児教育力の向上（保護者の1日保育体験の実施）			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	14,901	1,494	20	13,387
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	センター主催の研修講座受講者数	—	7,656 人
	成果 指標	園内リーダーの養成人数	349 人	148 人
[事業評価]	31 年度までに 349 園全てに園内リーダーの養成を行う。			
[事業評価]	幼児教育支援センターでは、27 年 3 月に策定した 5 歳児の遊びの中の学びと小学 1 年生の学習をつなぐ福井県保幼小接続カリキュラムを、県内すべての小学校区で実践していくために、福井型幼児教育研修システム（市町幼児教育アドバイザー、園内リーダーの養成研修）をスタートした。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(15) 英語力向上事業			義務教育課	
[事業目的]	授業以外で英語に触れる機会を増加させるとともに海外語学研修等の実践的なプログラムにより、英語コミュニケーション能力を伸ばし、国際的に活躍する人材を育成する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング機会の充実（イングリッシュ・シャワー、土曜スクール等） ・NHKと連携し作成した英語テキストの活用 ・生徒を海外語学研修に派遣 ・小中学校および高校教員を対象とした研修の実施 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	51,969	24,373		27,596
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	土曜スクール 開催校数	8校	8校
	成果 指標	英語を続けた 生徒	50%	57%
[事業評価]	A L Tを活用した授業や海外語学研修など集中的に英語を使う場面を確保することにより、英語に興味を持ち、自分の思いを英語で伝えようとする生徒の増加が図られている。			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(16) スクールカウンセラー配置事業			義務教育課	
[事業目的]	児童・生徒の心のケアを行うための専門家を配置し、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。			
[事業内容]	児童生徒の心のケア等を行うスクールカウンセラーを配置 <ul style="list-style-type: none"> ・配置校（県内公立全小中学校に配置） （中学校：73校 小学校：194校） ・業務内容 児童生徒等へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	92,984	30,997		61,987
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	相談延べ件数	—	23,496件
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校のスクールカウンセラーが校区内小学校にも訪問するなど、配置対象校を拡充し、児童・生徒や保護者等からの相談に応じることができた。 ・相談内容が複雑な案件が増加しており、今後もスクールカウンセラーの増員や研修会を充実するなど、相談体制の強化を図っていく。 			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(17) スクールソーシャルワーカー配置事業			義務教育課	
[事業目的]	社会福祉等の専門的な知識を持つ人材を配置し、家庭、友人関係等、児童・生徒を取り巻く環境の問題を解決する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーを17市町に配置 ・運営協議会、事例検討会の開催 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	12,024	4,008		8,016
[事業の目標 および効果]	内 容	目 標	実 績	
	活動 指標 対応件数	—	371 件	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所や警察等の関係機関と連携し、児童・生徒を取り巻く環境の問題解決を図った。 ・相談内容が複雑な案件が増加しており、今後もスクールソーシャルワーカーの増員や事例検討会を行い、相談体制の強化を図っていく。 			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(18) 「白川文字学」普及・研究促進事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	故白川静先生が確立した「白川文字学」を活用した本県独自の漢字教育を研究し、学校教育等で実践するとともに、その指導方法を県内外に広げ、全国の漢字教育を先導する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・「白川文字学」の県内外へ向けた普及活動 「第3回白川静漢字教育賞」の実施、パネル展、漢字文化講座等の開催 ・教員の指導力向上 「漢字指導者認定制度」の実施、指導法の研究、研修会の開催等 ・「白川文字学の室」の充実 展示パネルの作成 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	9,187		100	9,087
[事業の目標 および効果]	内 容	実 績		
	成果 指標 漢字学習講座等 への参加者数	3,828 人		
	成果 指標 「白川文字学の 室」入室者数	11,219 人		
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・「第3回白川静漢字教育賞」には、全国21都道府県と海外から過去最高となる69件の応募があり、表彰式において、優秀事例の実践発表を行うとともに、ホームページ等により全国に発信した。 ・研修会や模擬授業等を開催するとともに、各校の漢字教育を推進している教員63名を漢字教育指導者に認定し（累計200名）、指導力の向上を図った。 			

I 元気な社会				
2 福井から人材育成				
(19) 青少年体験活動施設整備事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	小中学生の野外体験や長期集団宿泊を中心とした体験活動施設として、老朽化した芦原青年の家の移転整備を行う。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦原青年の家施設整備の建設工事、外構工事 ・ 芦原青年の家の新しい体験プログラムの施行 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	1,700,946		1,290,911	410,035
[事業の目標および効果]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設整備については、本館・体育館および附属棟の建築・設備工事を完了した。 ・ 体験プログラムについては、地域の団体・施設と連携し、自然観察、農業体験、歴史文化体験など64件の新プログラムを準備した。 			
[事業評価]	28年7月の開所に向けて、外構工事および備品の整備を行う。			

I 元気な社会				
3 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献				
(1) ・子どもの目と歯の健康プロジェクト事業			スポーツ保健課	
[事業目的]	小中学生に対する近視予防対策の実施や、小学校1～4年生を対象とした正しい歯みがき教室の開催などにより、子どもの目と歯の健康づくりを推進する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての小中学校の教室に、目の健康を守る3カ条を掲示するとともに、目を休めるリフレッシュタイムを実施 ・ 就学前の児童や保護者、小学校1～2年生の児童に対し、目の健康を守る生活習慣を定着させるためのチェックカード等を配布 ・ 小学校1～4年生の児童を対象に、歯垢染色剤やリーフレットを活用した正しい歯みがき教室を開催 ・ 小学校1、4年生に歯科二次検診を実施するとともに、口型模型を配布 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	3,735			3,735
[事業の目標および効果]		内 容	目標	実績
	活動指標	歯みがき教室受講率	100%	100%
	成果指標	むし歯のない(処置完了者含む)小学生の割合	73.6%	68.4%
[事業評価]	小学校1～4年生を対象に養護教諭等による歯垢染色剤を活用した歯みがき教室を行い、歯みがき習慣の定着を図るとともに、歯科二次検診を通じてむし歯治療の勧奨機会を増やしたほか、小学校1～2年生や28年度入学予定児童に対し、目を大切にする健康カードを配布し、近視予防につながる生活習慣の定着を図った。			

I 元気な社会				
4 日本一の安全・安心（治安充実から治安万全へ）				
(1) 県立学校耐震化促進事業				学校振興課
[事業目的]	教育環境の安全性をさらに確保するため「県建築物耐震改修促進計画」に基づき、耐震性の劣るCランクの棟について、優先順を考慮のうえ、順次補強工事を実施する。また体育館等の天井および照明器具等について、落下防止対策を実施する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教棟・体育館などの耐震補強計画策定、実施設計、補強工事を実施 ・体育館等のつり天井撤去による落下防止対策工事を実施 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	882,596	335,006	386,901	160,689
[事業の目標および効果]	県立学校 11 棟の耐震補強工事および体育館等のつり天井撤去による落下防止対策工事を実施した。			
[事業評価]	県立学校の耐震補強工事を順次実施し、平成 27 年度末に耐震化率 100%を達成した。			

II 元気な産業				
7 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ				
(1) 和食教育推進事業				スポーツ保健課
[事業目的]	小中学校において、和食を取り入れたおいしい学校給食を導入するとともに、地場産食材や伝統工芸品の食器の使用を通じて、和食文化を守り育てる教育を推進する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭がプロの料理人と協働で、新たな一汁三菜メニューを開発 ・ご飯と汁物による和食給食を提供 ・石塚左玄の訓えを学ぶ食育教材「食育チャレンジ」を作成 ・栄養教諭、調理員等を対象とした和食給食研修会を開催 			
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
(単位：千円)	2,161			2,161
[事業の目標および効果]	内 容		目標	実績
	活動指標	和食教育研修会開催回数	3 回	3 回
	成果指標	給食を食べ残さない児童生徒の割合	—	84.4%
[事業評価]	栄養教諭・学校栄養職員・調理員等を対象に、石塚左玄の訓えや和食調理技法についての研修会を開催することで、おいしい和食給食の推進を図った。			

IV 元気な県政				
1 1 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(1) 芸術教育推進事業				義務教育課
[事業目的]	学校教育を通じて、音楽や美術など芸術面における体験活動を充実し、児童・生徒の感性や表現力の向上を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生および高校生の弦楽奏者の育成 ・小学校での童謡、唱歌の活用 ・日本画を活用した美術教育の推進 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	12,911		3,155	9,756
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	弦楽器講師 派遣回数	416 回	416 回
	成果 指標	弦楽器奏者数	140 名	155 名
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・推進校を2校増やし、基礎的な演奏技術の習得・向上を図るとともに、校外での発表や合同演奏の機会を積極的に設け、弦楽器奏者の育成に努めた。 ・全小中学校および高校で水墨画や日本画を描く授業を行い、児童生徒の技能と表現力の向上を図った。 			

IV 元気な県政				
1 1 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(2) こども歴史文化館事業				生涯学習・文化財課
[事業目的]	福井ゆかりの人物（先人・達人）の生き方や業績等を展示や講座、出版、出前教室等により紹介し、郷土の歴史文化の理解を深め、福井に誇りをもてる子どもを育てる。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・リニューアル事業…特別展示室およびコレクションひろばの整備 ・先人・達人普及事業…各種イベント、出前教室等 ・先人・達人発掘事業（調査研究）…未開拓の人物情報の調査研究 ・先人・達人資料収集事業…実物資料の収集等 ・先人・達人特集事業…企画展の開催 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	68,623	39,393	203	29,027
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	企画展開催回数	4 回	4 回
	成果 指標	入館者数	54,000 人	54,291 人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展示室（1階）とコレクションひろば（3階）の展示工事を実施し、3月に幕末の先人をテーマにしたリニューアルオープン記念展を開催した。 ・白山信仰や福井にまつわる妖怪の歴史を紹介する企画展を開催するとともに、かるた名人の誕生や選抜高校野球優勝など、時機を捉えて記念展を実施したほか、親子で楽しめるワークショップなどを開催し、来館者の増加を図った。 			

IV 元気な県政					
1 1 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に					
(3) ふるさと文学館事業			生涯学習・文化財課		
[事業目的]	ふるさと文学館において、福井ゆかり作家、作品の魅力を中心に伝える展示等を実施するほか、若者の創作活動を応援し、文学に親しむ機会を増やす。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 企画展の開催 若い世代の創作活動を支援する文学ゼミや文学カフェ等の開催 				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	25,599			142	25,457
[事業の目標 および効果]		内 容	実績		
	活動 指標	企画展開催回数	3 回		
	活動 指標	入館者数	81,779 人		
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> 日本近代文学館と連携した高見順没後 50 年特別展をはじめ、本県ゆかりの作家・作品をテーマに企画展を開催した。 若い世代を対象に年間を通じて文章指導を行う「ふくい文学ゼミ」を新たに開講し、28 人が修了した。 宮下奈都氏等をゲストに迎えた「文学カフェ」を 4 回開催し、文学ファン層の拡大を図った。 				

IV 元気な県政					
1 1 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に					
(4) 文化財指定促進事業			生涯学習・文化財課		
[事業目的]	県民の財産である文化財を保存し、地域づくりや観光への活用を図るため、文化財の国指定等に向けた調査を推進する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 建造物、民俗、古文書等の調査 名勝指定のための測量調査 				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	8,341		2,080		6,261
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	現地調査件数	—	45 件	
	成果 指標	文化財指定件数	10 件	11 件	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> 北前船主通りにある「中村家住宅」(南越前町)の国指定とともに、越前和紙の製作技術である「越前鳥の子」(越前市)他 9 件を県指定文化財とした。また、旧北陸線トンネル群など 22 件が国登録有形文化財として登録された。 国指定に向け、「おくのほそ道風景地(気比神宮)」(敦賀市)の測量調査を実施した。 				

IV 元気な県政				
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(5) 一乗谷朝倉氏遺跡整備・活用推進事業				生涯学習・文化財課
[事業目的]	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡について、復原整備等を促進するとともに、本県の観光振興とイメージアップに活用する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡の復原整備等 ・出土遺物保存処理 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	37,048	17,734		19,314
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	発掘面積	—	—
		復原面積	2,000 m ²	2,000 m ²
成果 指標	一乗谷朝倉氏 遺跡来訪者数	—	1,079,500 人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・西山光照寺跡の復原整備や出土遺物の保存処理等を行い、遺跡への来訪者の誘致を図った。 ・今後も遺跡の発掘調査や復原整備、出土遺物の保存処理を行い、遺跡の充実を図る。 			

IV 元気な県政				
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に				
(6) 県民スポーツ祭開催事業				スポーツ保健課
[事業目的]	県民の誰もが気軽に参加できるスポーツ大会を開催し、競技スポーツと生涯スポーツの普及・振興を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して「県民スポーツ祭」を開催（4月～2月） ・「冬季ファミリースポーツフェスタ」を開催（奥越、2月） 			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	15,200			15,200
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績
	活動 指標	参加者数	—	46,011 人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人まで幅広くスポーツに親しむことができる機会の提供が図られた。 ・実施方法の工夫により、さらに県民が参加しやすいものとし、県民がスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に寄与していく。 			

IV 元気な県政					
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に					
(7) 1県民1スポーツ普及事業				スポーツ保健課	
[事業目的]	「福井県スポーツ推進計画」に掲げる子どもの体育・スポーツ活動や、各世代の1県民1スポーツの活動を推進する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・1日1時間以上体を動かす「アクティブワン活動」や放課後スポーツ活動を実施 ・中学校において国体種目を取り入れたスポーツ体験活動を実施 ・1日30分以上のスポーツ活動を促すふくいスポーツチャレンジを普及啓発 ・地域のスポーツクラブ指導者を対象に指導力向上のための研修会を開催 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	2,953			2,953	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	スポーツ体験活動実施校	72校	72校	
		地域クラブ等指導者研修会開催	32回	35回	
	成果 指標	スポーツ実施率	58.0%	—	目標数値は、 30年度末までの目標
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での運動遊びや伝承遊びなどのスポーツ活動により、運動が得意でない児童が積極的に体を動かすようになった。 ・地域クラブや商工会議所などで開催した研修会を受け、受講者が自分の職場で新たに講師派遣を依頼するなど、継続的なスポーツ実施への活動が促進された。 				

IV 元気な県政					
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に					
(8) 福井運動公園整備事業				スポーツ保健課	
[事業目的]	「福井しあわせ元気国体」に向け、競技会場や選手強化の拠点および将来にわたる利用を念頭に福井運動公園の再整備を行う。				
[事業内容]	福井運動公園内施設改修工事等の実施 体育館、陸上競技場、補助競技場、屋内走路、野球場、補助球場、テニスコート、水泳場、補助球場、少年運動公園、外構				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	4,665,965	1,616,023	2,334,607	715,335	
[事業の目標 および効果]	各競技施設の改修工事を計画に沿って進めている。 (27年度改修完成施設：陸上競技場、補助競技場、水泳場、野球場)				
[事業評価]	改修工事が完了した施設から順次供用を開始し、国体選手の練習や県民のスポーツ利用に活用することが出来た。引き続き残る各施設の整備を進め、早期の全面供用開始を目指す。				

IV 元気な県政					
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に					
(9) 県立体育施設の整備				スポーツ保健課	
[事業目的]	「福井しあわせ元気国体」に向け、競技会場や選手強化の拠点および将来にわたる利用を念頭に県立体育施設の整備を行う。				
[事業内容]	① 漕艇場艇庫の建設工事 ② クレー射撃場の環境対策改修工事 ③ ライフル射撃場増設（10m射撃場建設） ④ 馬術競技場の改修工事				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	①	314,854	256,181		58,673
	②	544,756	242,683	258,928	43,145
	③	323,175		323,114	61
	④	130,185		128,185	2,000
	計	1,312,970	498,864	710,227	103,879
[事業の目標 および効果]	① 艇庫建設工事完了 ② クレー射撃場環境対策基本計画に基づく改修工事完了 ③ 10mライフル射撃場建築工事完了 ④ 馬術競技場改修工事完了				
[事業評価]	工事が完了した施設から順次供用開始し、国体選手の練習や県民のスポーツ利用に活用することが出来た。				

IV 元気な県政					
11 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に					
(10) ・競技力向上対策事業				競技力向上対策課	
[事業目的]	国民体育大会および各種スポーツ大会において本県選手が優秀な成績を収められるよう、計画的に競技力向上対策を実施し、競技力の向上とスポーツ振興を図る。				
[事業内容]	各競技団体における選手強化のための強化合宿等に要する経費を支援 ・補助対象者：各競技団体 ・対象経費：強化合宿等に要する経費 ・補助率：定額				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
		480,572		284,845	195,727
[事業の目標 および効果]		内容		目標	実績
	活動指標	選手確保（スポジョブふくい）		60名	62名
	成果指標	国体順位		10位台	26位
[事業評価]	・本県選手が国民体育大会をはじめとする大会において優秀な成績を収めることは、県民に夢と感動を与え、スポーツの普及・振興等にも寄与している。 ・競技力向上基本計画に基づき、「福井しあわせ元気国体」での優勝、国体後の恒久的な競技スポーツ振興に努めていく。				

VI 有識者からの意見

○福井大学副学長（教育・学生担当） 中田 隆二

平成 27 年度は、10 月に「教育に対する大綱」が、12 月には大綱に基づき、31 年度までの今後 5 年間の具体的な施策を明示した「福井県教育振興基本計画」が策定されており、本報告書からは、過去数年間に劣ることのない精力的な活動実績が窺える。

教育委員会制度の見直しにより、本県においても昨年 5 月より従来の教育委員長の職務を兼ねる形で新教育長が任命され、知事と教育委員らとの協議・調整の場として総合教育会議も設置されたが、この制度変更に伴う効果、そして前回の教育振興基本計画の評価や見直しとの関連を十分に認識しておくことが大事である。

報告書後半では、10 の基本方針に沿った具体的な施策等がバランスよく多面的に実施されている様子が窺え、各事業の達成状況を示す多くの指標が定量的数値として記されている点も評価できる。ただし、定量化できず定性的ではあるが重要と思われる要素も評価から省かないよう注意が必要である。

具体的な施策は、地域と連携した芸術・文化活動や社会参画・キャリア教育等を通してふるさと福井に誇りと愛着を持ち、地域創生に資する人材を育成する取組み、グローバル化した「知識基盤社会」にあって、持続可能な社会に有為な人材を育成する取組み（外国語教育、理数教育、情報教育、環境教育等）、学校教育から社会教育まで、スポーツ振興や文化・芸術活動を基にした生涯学習支援のための環境整備の取組み、そしてそれらの基盤となる学校教育の設備・施設整備と人的支援や教育体制の整備（防災対策、障害者差別解消法対応含む）等到大別し、取りまとめることができる。

いずれも、福井独自の特徴ある取組みや社会の要請に応える重要な取組みであり、達成状況から判断して、着実な成果を挙げていることは評価できる。

特に、学校教育に関わる取組みについて言及すると、「福井型 18 年教育」、「子どもの学力・体力日本一」といった文言で本県の学校教育は他県の教育関係者から高い評価を受けているが、一朝一夕に実現するものではなく、家庭・地域の協力のもと、永年にわたる個々の教員の地道な活動と県教育委員会等の意欲的な方策が相まって達成されたものであり、今後も、不断の努力を期待したい。また、全国的な傾向として、これまで学校教育を支えてきたベテラン教諭の大量退職に伴う新卒者の大量採用が続き、年齢構成バランスが偏った状況にある。そのような状況も踏まえ、中央教育審議会においても、養成段階でのインターンシップの導入や、若手教員育成のための指導教員の確保などが提案されている。本県においても、既に先取りしている部分もあるが、教員の多忙化解消という課題も同時に考えながら進めていくことが肝要である。

今後、養成・採用・研修の一体的な改革が求められており、法改正も念頭に置きつつ、養成に取り組む大学と学校現場、採用・研修を担う教育委員会を繋ぐ協議機関として「教員育成協議会（仮称）」の設置が提案されている。既に本県では福井大学教職大学院と協働した教員研修への取組みも進められており、移転後の教育研究所を中心としたさらなる展開も含め、福井の教育をより良くするための創意工夫に期待したい。

○ 前 福井県PTA連合会 会長 田 本 憲 恭

全国トップクラスの学力体力を長年維持しつつ、将来の福井県を担う子供たちのため、今後5年間の教育目標とする「教育に関する大綱」に基づき、福井県教育振興基本計画を策定し、突破力を身に着けることができる教育を推進するため、具体的に施策を進めていることを大変評価する。10の方針とその細目を見ると、やることが沢山あり、着実に実行していくことこそが重要であり、毎年重点項目をしっかりと確定し、実施していく事が重要ではないかと思う。今後、施策を実施する際に起こる問題点についても、検討および修正について迅速・的確な対応をしていただきたい。

教育委員会について、会議や視察など委員会活動においてしっかりとした回数を開催しており敬意を表したい。一方、教育委員の負担を軽減することも考えていただきたい。また、教育委員会の活動に対し、PTAなど幅広い年齢層からの意見を求め、さらに反映していくことも検討していただきたい。

個別の議論として思うことは下記の通りである。

- 1 一斉授業、一斉学習について、学力が高い子どもと低い子どもに一括して同じ教育をすると、学力が高い子どもが退屈になるのではないか。同一の教育内容というわけではないが、学力が高い子どもも低い子どもも伸ばしていくためには、習熟度別学習は効果的だと思う。特に英語教育について顕著に表れると思うので、一部の学校では実施しているが、ぜひ、全学校に広げてほしい。教員採用の改善については先を見据えた取り組みだと思うがやはり教職員の増員等の必要性を感じる。
- 2 英語教育について、中学校におけるALTの増配置が進み、次は、小学校におけるALTの配置を充実することが重要ではないか。小学校の配置は市町が進めることであり、市町における促進を期待したい。また、小・中学校からの短期留学など交流を含めた取り組みのすそ野をぜひ広げてほしい。留学の経験により今後の子どもたちの人生の起点になっていることが多く県としての取り組みを期待する。
- 3 いじめ対策についても、SNSなどを介したいじめが問題である。昨年、「ふくいスマートルール」を策定し、小・中・高校において児童・生徒が主体となったルールづくりを進めているが、子どもたちだけではなく、保護者と教師も一緒に考えながらルールづくりができるような環境整備を進めていただきたい。
- 4 キャリア教育について、職場体験などは現場の教員だけではなく、保護者が一緒になって企画や受入企業の開拓に参加するような環境づくりを進めていただきたい。コンピューター化やロボットの台頭で20年後の職業・企業数が半減すると言われており、地域・家庭・学校が一体となつての取り組みの必要性を感じる。
- 5 近年の災害において子どもたちの防災教育の必要性を大いに感じる。ネットモラル・薬物乱用防止教室に続き、防災教育の推進も大事である。

以上、主な項目を挙げたが、新たに策定された教育振興基本計画に基づく施策を進めることにより、子どもたちが夢や希望を持ち、その実現に向けて有効な教育行政が行われることを期待する。